

# 北社会ニュース 第20号

2006-2-15

発行： 鈴木壮夫

## (1) 本日、第239回北社会

本日は高27回の阿部孝会員に講演をお願いしました。阿部さんはIBMビジネスコンサルティングサービス(株)に勤務されております。

本日は「日本におけるインターネットの進化～ネットで変わるビジネス～」がテーマです。

インターネットの進化により、公的にも私的にも大きな変化が訪れるのでしょうか。その未経験な領域に年齢的に対応できるのか、ビジネス以外の個人の領域もどんな変化が出てきそうなのか・正直、お話についていけるかどうか期待と不安が交差しておる私です。

## (2) 来月、第240回北社会

3月15日(水) 会員によるスピーチ

宮川彰彦氏(高7回) エンジニアリング振興協会

「イラクのカルチャーを振り返って」

先月の新年会での宮川先輩の60秒スピーチに多くの会員が興味と関心を寄せました。しょっちゅう、報道されている割には「コーラン」のことも「イラク」のこともよく理解していないことが分かったからだと思います。

ほとんどの会員が多分、宗教には無関心だと思うし、知識もないでしょう。

でも是非いろんな経験をお聞きしたいと講演をお願いし、快諾いただきました。

---

## 私のここ一ヵ月

### (1) 西澤潤一先生

先月、私と同期の原さんがお知らせしたように2月13日(月)東京レインボーロータリークラブで「卓話」をされるというので、中村恒郎さん(高13回)とゲスト参加し、約一時間の講演を拝聴しました。西澤先生は和賀井先生の2年後輩の1926年のお生れで9月に80才になられるそうです。つくづく、お二人とも若いなあと思えました。初めて十数分間だったでしょうか数人でお話できました。

前宮城県知事浅野さんへの批判も強烈でした。10年程前、仙台の書店で購入した西澤先生の著書を二冊持参してサインをしていただきました。

新学問のすすめには「愚直一徹」と、東北の時代には「素心知困」と書いていただきました。

講演のテーマは「テラヘルツ波の開発と応用」でした。21世紀の世界は「知識」の競争になる。世界に冠たる「知識」を産み出す土壌は日本にある。足をひっぱりあってはダメだ。しかし、偏差値教育の弊害が随所にみられ残念だ。「官」の守旧族もダメだ。例えば、テラヘルツ波でガン細胞の有無を数十分で検診できる可能性を究める努力を

すべきだ。従来方法では数日間かかる。

全体のレベルはかなり上がっている。多くの人のため、社会のため、個人は自らのエゴを排除して、協力しあう「心」が今こそ必要なんだと強調されておりました。

青山先輩が企画された「百年の逸材」の西澤先生の記事の最後の数行が思い出された。絵画が好きな西澤先生が1971年パリの国立美術館でモネの「睡蓮」を観ている内に絵画が逆さまと判った。翌年行くとそのままだった。名刺に逆さだと書き、守衛に渡して帰ってきた。この指摘はすぐ「ル・モンド」が取り上げた。絵画鑑賞でも一流と結んでいる。川越からお台場まで往復4時間かかったが、同行した妻も感銘を受けた日でした。

## (2) 「両肩の文化の重み」

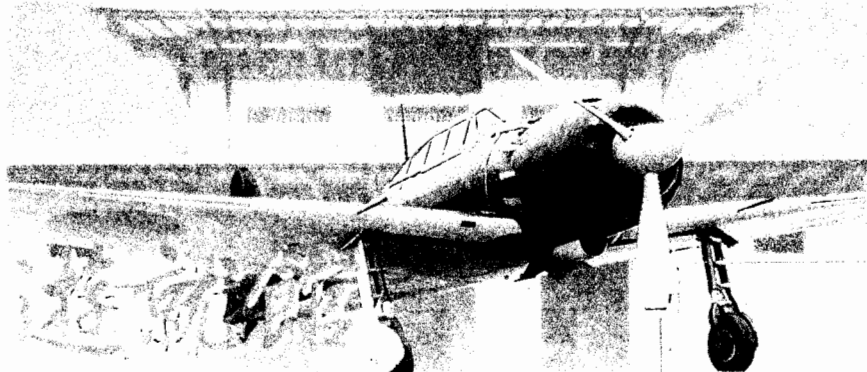
2月8日、毎日新聞・「司馬遼太郎没後10年」に宗教学者の山折哲雄氏が寄稿されておられた。20年程前、司馬さんがニューヨークの街を歩いているとき、いろんな人種・聞いたこともない言語が飛びかい、顔の色もちがい、着ているものもさまざまな人波に巻き込まれた。でも、気圧されることもなく、肩をいからすでもなく、普通の日本にいると同じ気分歩いている。不思議だなあ・・・と考えていた時、フッとひらめいたそうです。ああ、自分の両肩には日本の文化の重みがのっかっていると思ったそうです。

この文章を読んだ瞬間、私もひらめきました。私の両肩には「仙台二高」がのっかっていると。私は「神も仏も」信じていません。でも、自分なりに65年間を生き抜いてこられた。支えてくれたもの、「仙台二高」での青春の三年間（本当は補習科含め四年だが）以外思いつかない。翌日9日、高11回同期会・東京ピンピン会が竹橋で開催された。

40人の仲間と唄った。「桜の花にもものふが、ひそかに秘めしおもしろいこそ、我が若人のこころなれ」。姿勢を正して、「ともにともにいそしまむ。いざ、いざ怠らず」

近代国家成立のため、我が国の自存自衛のため、更に世界的に視れば、皮膚の色とは関係のない自由で平等な世界を達成するため、避け得なかつた多くの戦いがありました。それらの戦いに尊い命を捧げられたのが英霊であり、その英霊の武勲、御遺徳を顕彰し、英霊が歩まれた近代史の真実を明らかにするのが遊就館の持つ使命であります。

## (3)



〒102-8246 東京都千代田区九段北3-1-1 TEL.03(3261)8326 FAX.03(3261)0996  
URL: <http://www.yasukuni.or.jp/>

「遊就館」をご存知でしょうか。私はつい最近までその存在自体を知りませんでした。こちら毎日新聞ですが、1月30日、「揺れる日米中」・小泉外交の光と影に「中国、韓国以外に靖国参拝を批判する国はありません」と首相は答弁した。が、米国内部にも微妙な変化が生まれている。これは、6年前の改修後「皇国史観」が一段と強調され、「日本の戦争が正しいとさえ思わせる高慢な内容」と戦争博物館を批判しているとの記事でした。先週、ピンピン会の前に行ってみました。十数年ぶりの靖国神社でした。荷の重い課題ですが、今年の同期情報誌のテーマにしようと思っています。